

分担研究者 松本俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所

### 【1】 渡航先

ミネアポリス（米国）

### 【2】 渡航期間

平成19年6月27日～7月1日

### 【3】 渡航目的

わが国の少年施設（少年鑑別所・少年院）において、自習用の薬物乱用防止ツール（ワークブック）の開発を行うにあたって、著しく立ち後れているわが国の薬物依存治療ではなく、海外の治療施設を視察し、現地にて意見交換を行い、国際的な水準における薬物依存治療のあり方に対する理解を深めることが重要である。なかでも、12ステッププログラムと並んで、臨床的に重要である認知行動療法にもとづく治療プログラムに対する理解は不可欠である。そこで今回、依存症治療発祥の地である、米国のHazelden Centerを現地調査し、情報・意見交換を図った。同時に、同施設に閉店されているHazelden出版直営の書店にて、わが国に未入荷の依存症治療ワークブックを閲覧、収集し、ワークブックの作成に際しての資料を得ることも目的とした。

### 【4】 渡航旅程

6/26 成田→ミネアポリスの移動

6/27 Hazelden Center City

Hazelden Centerにおける依存症治療の基礎をなす、成人依存症者のための治療法に関する現地調査、情報・意見交換を目的として訪問した。

Hazeldenで採用している疾病モデルに基づく教育的プログラム、治療上必要な日常生活の構造的枠組みを中心に調査、情報・意見交換を行った。また、女性依存症者に固有の問題や治療法についても情報・意見交換を行った。

6/28 Hazelden Center City

成人用プログラムの中から、特に、家族介入の目的とその方法論、重複障害をもつ依存症者の治療、再発予防、12ステップ・プログラム教育について現地調査、情報・意見交換を行った。

さらに、同施設併設のHazelden出版専属の書店で、青少年向けの薬物依存治療プログラムに使用するワークブックを多数閲覧し、わが国独自のワークブック作成に際して参考となるものを購入した。

6/29 Hazelden Center for Youth and Families

青少年依存症者のための治療法に関する現地調査、情報・意見交換を目的として訪問した。成人用のプログラムとの相違点、ならびに青少年の薬物依存者の臨床的特徴や精神医学的併存症の問題、さらにはHazeldenで行われている治療方法について幅広く情報・意見交換を行った。

また、家族介入の目的とその方法論についても意見交換を行った。

6/30 ミネアポリス→成田の移動

7/1 成田着

### 【5】 渡航成果

最新の知見を取り入れた教育的プログラムや各種心理療法を統合した包括的な多職種による薬物依存症治療、青少年に特化した臨床的アプローチを学ぶことが出来た。また、わが国独自の自習用ワークブック開発に資する貴重な資料を多数収集することができた。

(別掲 6)

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体 編集者名	書籍名	出版社名	出版 地	出版年	ページ
和田 清	第 9 章第 2 節 9-2-9 薬物依存	編集 精神保 健福祉白書 編集委員会	精神保健福祉 白書 2008 年版	中央法規出 版株式会社	東京	2007.12.10.	174-174

## 雑誌

発表者名	論文タイトル名	発表紙名	巻	ページ	出版 年
和田 清、尾崎 茂	5. 薬物依存形成	臨床精神医学	第 36 巻 増刊号	292-298	2007
和田 清	薬物依存を理解する－「乱用－依 存－中毒」という関係性の中で理 解することの重要性－	日本アルコール精神医学雑誌	14(2)	39-47	2008
尾崎 茂	物質関連障害の診断基準をめぐっ て－DSM-IV, ICD-10 診断における 妥当性について－。	日本アルコール精神医学雑誌	14(1)	19-26	2007
尾崎 茂	Ⅲ. 副作用各論－重大な副作用－精 神神経系、薬物依存。「医薬品副作 用学－薬剤の安全使用アップデート －」	日本臨床	65 巻増 刊号	357-361	2007
福永龍繁、重田聡男	東京都 23 区における死因究明の現 状	日本医事新報	4355	81-84	2007
福永龍繁、谷藤隆 信、加藤幸久、景山 則正、門馬康彦、土 橋利津子、呂彩子	東京都 23 区における一酸化炭素中 毒の行政解剖例の検討	法医学の実際と研究	50	265-271	2007
福永龍繁、谷藤隆 信、井上顕、呂彩子	監察医からみた自殺	精神科	10(6)	450-455	2007
福永龍繁、呂彩子	アルコールと突然死－大酒家突然死 症候群	医学のあゆみ	222(9)	648-654	2007
嶋根卓也、森田展彰	思春期における健康問題：薬物乱用	小児内科	39(9)	1371 -1374	2007

平成19年度厚生労働科学研究費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬物乱用・依存等の実態把握と  
「回復」に向けての対応策に関する研究  
(H19-医薬-一般-025)

研究報告書

主任研究者：和田 清（国立精神・神経センター 精神保健研究所）

2008年3月31日 発行